

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	【話の内容の理解し、紙しばいに興味を持たせる】 <めあて> どんなおはなしか かんがえよう。 ・デジタル教科書のスライドショーを見せる。(4分21秒) (あとでクイズを出すことを知らせる。) ・登場人物や場所をクイズ形式で確かめる。 ・どんな「やくそく」なのか、探し出す。 ・(時間があれば)好きな場面を発表する。 ・紙しばいシートの説明。(半分に折り絵を見せる。色をぬる。等) ・紙しばい発表会の割り当てを発表。	・『発表の仕方』として、4月から次のようなこと継続的に指導している。 →発表の仕方がだいぶ定着してきている。 *名前を呼ばれたら、「はい」と必ず返事をする。 *単語だけで答えるのではなく、文の最後には必ず「です・ます」を付けて丁寧に言うようにする。 *分からなかったら、「分かりません」と自分の様子を伝える。 ・登場人物を口頭確認のみで済ませずに、ノートにもきちんと書かせる。 →子ども達の活動量が増え、登場人物を確実に確認できた。 *子ども達と同じマス目のノートをドキュメントカメラで映しながら指導すると、視覚的に分かりやすく、子ども達が集中して一生懸命に書くようになる。 *記録にきちんと残すことで、学習内容が子ども達に定着する。 ・宿題の『紙しばいシート』の説明をし、実際に見せた。 →子ども達の興味を高めることが出来た。	【オンライン授業ならではの工夫】 ・スクリーン 2 台を使用し、うち 1 台を子ども達のモニター専用にする。 【課題】 ・子ども達が答えやすい発問の仕方にする必要がある。 ・モニター 2 台を使用し、なるべく子ども達全員の様子を把握できるようにしているつもりだが、授業後の録画を視聴すると、教師が様子を把握できていない児童がいたことに気がついた。(オンライン授業の課題であって、対面授業になれば改善されるものと思われる) ・挙手の多い子ども達ばかり当ててではなく、指名制にして全員に均等に発言できる機会を与えるようにする必要がある。
	家庭学習課題 ・「やくそく」の紙しばいのシート 6 枚を印刷し、自分のパートを色塗りする。音読の練習をする。自分のパートを特に練習するよう指示。	・宿題の音読録画を Google クラスへアップロード(「音読発表会」というトピックあり)させているので、子ども達同士がお互いの音読動画を見ることができ、良い刺激を受けていると思う。また、教師にとっても、子ども達の家庭での練習の様子や上達具合を評価することが可能になり、指導に生かすことが出来た。 ・自分の音読パートが与えられたことで、責任を持って課題に取り組むことが出来た。 ・保護者サポートがしっかりと得られたので、全員が課題に取り組むことが出来た。	【課題】 ・自分のパートだけでなく、6 枚すべて色塗りをした子ども達がいたので、宿題の指示の仕方をもっと明確にすると良かった。
2	<めあて> とうじょうじんぶつのどれかになって、いうことをたくさん、かんがえよう。 ・3匹のあお虫の気持ちを考える。 けんかをした時、仲直りした時(どうしてやめたか?) ・約束をした 3 匹のあお虫の気持ちを想像する。 ・擬音語、擬態語などを動作化して意味を確認する。	・「けんかした時」「木の上に行った時」「目を丸くした時」「仲直りした時」など、それぞれのパートごとに担当している子ども達へ質問をした。 →自分のパートのところは、子ども達はよく理解していて、正確に答えることができた。また、これをするにより、全員が発表することができた。 ・オノマトペで書かれている部分を実際にジェスチャーで表現したことで、その意味が理解しやすかった。 →子ども達にとって、身体を動かす活動は集中力を高めるためにも効果的であった。 (例)「さらさら・むしゃむしゃ・もりもり・ぐらりぐらり・くんねりくんねり・目を丸くする」を全員で声を出しながら表現してみた。 ・「目をまるくした あお虫の気持ち」を想像するために、ノートに吹き出しを書き、そこに自由に自分の考えを書かせた。 →ドキュメントカメラで記述礼を見ながら、教師と同じようにノートに書けた。	【オンライン授業ならではの工夫】 ・発表でない場面での意思表示は、オッケーサイン(指サイン)を出させる。 ・挙手の時には、手の平を画面に見せる。 ・発表しない時は、必ずミュートにしておく。 【課題】 ・時間があるときは、子ども達のノートをピン止めすることで大きくして確認できるが、通常のオンライン授業では、22 名全員のノートをチェックすることがなかなか出来ない。何か他の手立てを考えたい。

3	【紙芝居発表会】 くめあて> みんなのきもちがよくわかる かみしばいをみせよう。 ・気持ちをこめる。(会話文) ・読み方を工夫する。(大きさ、早さ) ・紙しばい発表を聞いている時、誰のセリフか登場人物カードを提示する。(時間があれば) 紙しばいの感想を発表する。	・発表を聞く時に、物語の展開に合わせて『登場人物カード (3 匹のあお虫や木)』を手にとって画面に出すようにした。 →普段よりも、友達の発表に耳を傾けることが出来た。 ・紙しばい発表後に、子ども達同士で「あの子、良かったよね」と褒め合う場面が見られた。 ・「聞かせたい相手」に対して、「読もう」という気持ちが持てたことで、以前に比べて感情を込めて読めるようになった。 ・「本物の紙しばいを作ってみたいな！」と、次への学習意欲に繋がった。 ・教科書本文を普通に音読するだけの活動よりも、とても楽しんで取り組めた。 ・最後に、教師から全体の感想を伝える時にパペットを使った。 →子ども達の興味をひきつけることができ、効果的だった。	【視覚的にアプローチ】 ・発表する時の心構えについて、口頭で伝えるだけでなく、実際にスケッチブックに書いた文章を見せた。その時に、二択のクイズ形式で正しい心構えを選ばせながら進めたことで、より子ども達の理解が深まり、しっかりと確認できたと思う。 例)「きくときは、おしゃべりを する？しない？どっちかな？」と、二択のクイズ形式で子ども達に考えさせた。
	家庭学習課題	紙芝居を家の人や Zoom を使って日本にいる親戚などへ披露する。	

【伸ばせた力・子どもの変化】

- ・音読発表会を「紙しばい」形式にしたことで、音読への取り組み姿勢が意欲的になり、気持ちを込めて読めるようになった。
- ・それぞれの発表場面を決めたことで、全員が参加できた。
- ・普段は音読課題の提出が滞る子ども達でも、自主的に意欲を持って音読活動に取り組めた。
- ・「日本へ帰った友達と今度また再会しようね！と約束した」など、単元終了後に自分の経験と学習内容を結び付けて、発展させることが出来た。

【保護者の反応】

- ・ただ読むだけでなく「なりきって読む」ことが身に付いて、びっくりした。
- ・教科書を音読するよりも楽しんで音読していた。
- ・塗り絵に苦手意識を持っていたが宿題として取り組めたのが良かった。

【所感】

録画されるということは、教師にとっても子ども達にとっても緊張するものですが、がんばろうという意欲に繋がった子ども達が多くいたのが嬉しい発見でした。相手意識を持つということは、大切なことなのだと改めて感じました。また、初めて「紙しばい」という形式に取り組みましたが、発表会をするという目標に向けて授業を進めたからか、各家庭での宿題の準備がしっかりできました。これは、第二の教室である家庭での学習が定着してきた結果だと思いました。録画を見ることで私自身の反省点を客観的に知る事ができたのは、自分の学びになり、とても良かったです。オンライン授業ならではの良さと限界も知ることができました。「反省は、いくらしてもいいけれど、後悔をしないように」という校長先生の言葉の通り、後悔することのない経験をこの研究授業でさせていただきました。ご指導やご協力に感謝します。ありがとうございました。